

退任のご挨拶



新井儀平（光風）

この三月、大東文化大学を定年、退職することになりました。長いようで短かったあつという間の十七年でした。それはまさに書を学び書を愛する学生たちと共に、書について思考し語り合い、書の本質を追及することで夢中になって過した授業と研究の十七年間でした。書道学科、書道研究所の先生方をはじめ文学部事務室・書道学科事務室の皆様には、ご支援ご温情を賜り、何と申し上げてよいかわからないほど大変お世話になりました。感謝の念でいっぱいです。

いろいろな思い出やその時折の出来事、感動が走馬灯のように脳裏を駆け巡ります。とりわけ二〇〇〇年の春、文学部に鶴首して待ち望んでいた書道学科が設立された時の喜びは格別なものでした。印刷されたばかりの書道学科入試案内のクロッシングを初めて開いた時の感激と記憶は今なお鮮明に残っています。当時における書道学科教員の意気込みは、今思えば異常なほどで、私もその一人でした。入学したばかりの学生たちに大きな期待と無限の可能性を感じながら出席した入学式、年甲斐もなくなぜか胸が熱くなっていたことを覚えています。書の向学心に燃える書道学科第一期生との最初の授業は、殊の外強く印象に残っています。

書道学科は教員と学生が心一つにして書に全力を傾注してきたように思います。着実な歩みと発展をとげ、すでに卒業生を送り出し、現在は大学院専攻に博士課程を置くまでに至っています。書を愛し、書に情熱を傾ける学生の一人一人が書作と書学の両面において自らの努力と研究心で確実に研究の成果を上げていることは周知の通りで、何よりも大きな喜びを感じています。

書の本質を追及する「書作コース」三・四年（連年）のゼミ「漢字作品制作演習」は、在任中に担当したカリキュラムの中でも色濃く思いつに残るものの一つです。三年ゼミでは表現力を高め、作家としての立場も視野に入れながら、将来的展望に立って最初から全員が本格的な大作の作品に取り組みました。紙面に表出した書の姿と進歩の過程が逐次看取できるので、毎週が楽しみでした。また四年ゼミでは、書の本質の追求を主眼に、教室では学生も私も年間を通して一度も筆を持たない演習方法を試み、次元の高い研究を展開してきたように思います。学生が時間外に書き込んで仕上げた大作の作品を持ち寄って教室で発表し、一点一点順次壁面に吊るし、全員

が肩を並べて作品と向き合い、ほんとうの書のあり方というものについて考察、研究を続けました。宋の蘇東坡の書論に「書には必ず神・氣・骨・肉・血有り。五者、一を闕けば成書と為さざるなり。」とあるように、書はいわば人間そのものの姿。書を考えることは人間の生き方を考えることと同じであり、書は生命のかたちを紙面に定着させるものであり、なんとも恐ろしいものです。四年ゼミ学生も私も緊張せずにはいられないことがありました。作品の前では、時には嬉しいことに学生たちと共に同等の立場に立って、真剣勝負のような空氣が生まれたこともあったように思います。目と感性と精神性を磨きながらの四年ゼミの作品制作演習は、楽しいものでした。

学外に研究の場を移しての夏季ゼミ合宿も大きな思い出の一つです。学生が互いに書の心を確かめ合い、技術の向上を計ることを目的に、学生全員が朝の九時から食事をはさんで夜の九時まで、必死になって書き続けたあの数日間。筆の動きや紙面に突き刺さる真剣なまなざしが、昨日のように臉に浮かんできます。ゼミ生各自が研究目標達成のために、書と正面から向かい合う姿勢は大事なことで、これからも何時までも継続してもらいたいと願っております。

ゼミ以外の授業では、講義科目「漢字制作論」、「漢字書法論」やオムニバスの「書道学基礎演習」を東松山校舎で一・二年に行い、板橋校舎の三・四年には「書論鑑賞」を、実技科目では「篆隸書法」「書法基礎演習」を担当しました。今、すべての授業を終了してみると、各々の授業時の教室の空氣が一つ一つ甦ってきます。時には進歩の速度が極めて遅い学生もいて、私が苦しむこともありました。進歩が早ければそれでもいいと言うものではありませんが、指導方法を考えることもありました。しかし、そうした悩みの種もいつしか消え、今となっては大切な思い出に変わりました。いろいろ記しておきたいことは枚挙にいとまがありません。

最後になりましたが、様々な事でご教導ご厚情を賜り、長い間大変お世話になりました書道学科、書道研究所の先生方をはじめ、文学部事務室・書道学科事務室の皆様、謹んで衷心より深甚なる謝意を表し、心より厚く御礼を申し上げる次第でございます。書と密接な関係にある中国学科の先生方には、種々ご教示を賜り、また日本文学や日本の書とつながりの深い日本文学科の先生方にもご支援ご協力を頂きました。感謝の念でいっぱいでございます。すでに本学を退職され、本学の書教育に尽力された多くの先生方にもこの場を借りて感謝を申し上げなければなりません。本学に私が初めて勤務した頃を顧みますと、当時はまだ書道学科が設立される以前で、教育学科の教員の一人としてお世話になりました。教育学科の先生方にも、あらためて感謝を申し上げます。

十七年間、大勢の先生方、皆様の大きなお力を頂きながら、大東文化大学で一応の責務を無事に果たすことができましたことを何よりも幸せに思います。感謝の氣持ちはつきません。

書道学科の益々の発展と隆盛を祈念し、学生や卒業生の皆さんのより一層の研究の成果を期待して、退任のご挨拶とさせていただきます。

新井儀平（光風）教授 年譜・業績目録

年 譜

学歴等

一九三七年三月 東京都渋谷区に生まれる
一九六三年一月 西川寧に書・書学を学ぶ

職 歴

一九六六年四月～一九八九年三月 書道研究所・洪水会主宰
一九八一年四月～一九八九年三月 書道総合誌『書品』編集・執筆
一九八八年四月～一九八九年三月 大東文化大学文学部教育学科非常勤講師
一九八九年四月～一九九五年三月 大東文化大学文学部教育学科助教授
一九九五年四月～二〇〇〇年三月 大東文化大学文学部教育学科教授
二〇〇〇年四月～二〇〇七年三月 大東文化大学文学部書道学科教授
二〇〇〇年四月～二〇〇五年三月 大東文化大学書道研究所所長
二〇〇三年四月～二〇〇七年三月 大東文化大学大学院文学研究科書道学専攻教授

学会及び社会における主たる活動等

一九九四年四月～二〇〇二年三月 書学書道史学会理事
二〇〇二年三月～二〇〇六年三月 書学書道史学会常任理事
二〇〇六年四月～現在 書学書道史学会参事
一九八六年十月～二〇〇四年三月 社団法人・日展会員・審査員
二〇〇四年五月～現在 社団法人・日展理事・審査員
一九九三年五月～二〇〇五年五月 全日本書道連盟理事
二〇〇五年五月～現在 全日本書道連盟理事長
二〇〇四年五月～現在 読売書法会常任総務
二〇〇五年七月～二〇〇六年九月 国立新美術館運営協議会委員

二〇〇六年九月～現在
二〇〇六年十月～現在

国立新美術館評議員
東京都美術館運営委員

《研究業績》

主たる著書

- 一九八六年八月 単著 『篆書のレッスン1〈入門編〉』二玄社
一九八七年十二月 共著 『呉熙載』（書学体系Ⅱ・第十八卷）福本雅一共著・同朋出版社
一九八八年八月 単著 『篆書のレッスン2〈演習編〉』二玄社
一九八九年八月 単著 『篆書のレッスン3〈臨書編〉』（二玄社）
一九九八年八月 単著 『古典の新技法1・金文』二玄社
一九九九年六月 単著 『古典の新技法2・帛書・木簡』二玄社
二〇〇六年十月 単著 『書道テキスト第五巻・篆書』大東文化大学書道研究所編、二玄社

主たる論文

- 一九八〇年十月 単著 『清・何紹基臨金文』書跡名品叢刊 二玄社
一九八一年十二月 単著 『中山国王璽鼎銘』（『書品』二六二号）東洋書道協会
一九八二年六月 単著 『侯馬盟書』（『書品』二六六号）東洋書道協会
一九八二年十二月 単著 『何紹基臨金文』（『書品』二六九号）東洋書道協会
一九八三年七月 単著 『睡虎地秦墓竹簡』（『書品』二七二号）東洋書道協会
一九八三年十二月 単著 『鄧完白隸書易屏』（『書品』二七四号）東洋書道協会
一九八四年五月 単著 『阜陽漢簡過眼記』（『書品』二七七号）東洋書道協会
一九八四年十一月 単著 『字数の少ない書』（『書学大系・研究編』同朋出版社）
一九八五年二月 単著 『法若真行書二種』（『書品』二八〇号）東洋書道協会
一九八五年十月 単著 『武威医簡』（『書品』二八四号）東洋書道協会
一九八七年六月 単著 『楚帛書』（『書品』二九一号）東洋書道協会
一九八八年一月 単著 『鄂君啓節』（『書品』二九三号）東洋書道協会

- 一九九〇年三月 単著 「秦始皇時期の肉筆」『書道研究』一月号、美術新聞社
- 一九九〇年十一月 単著 「新出土の吐魯番出土文書」『書道界』十一月号、藤樹社
- 一九九一年五月 単著 「隨県曾侯乙墓竹簡」『書道研究』三月号、美術新聞社
- 一九九三年四月 単著 「秦漢文字字形考」『大東書道研究』第一号、大東文化大学書道研究所
- 一九九四年三月 単著 「關於包山楚簡書法的考察」『日中書法史論研討會論文集』
- 一九九四年六月 単著 「包山楚簡の書法についての考察」『書学書道史研究』第四号、書学書道史学会
- 一九九五年三月 単著 「戦国・包山楚簡篆書中に見える忽卒の文字を中心として」『大東書道研究』第二号、大東文化大学書道研究所

学会における口頭発表

- 一九九六年三月 単著 「秦漢文字字形考・Ⅱ」『大東書道研究』第三号、大東文化大学書道研究所
- 一九九七年三月 単著 「秦漢文字字形考・Ⅲ」『大東書道研究』第四号、大東文化大学書道研究所
- 一九九七年十二月 単著 「秦漢文字字形考・Ⅳ」『大東書道研究』第五号、大東文化大学書道研究所
- 一九九八年三月 単著 「秦漢文字字形考・Ⅴ」『大東書道研究』第六号、大東文化大学書道研究所
- 一九九九年八月 単著 「郭店楚墓竹簡の書法と字形についての考察」『郭店楚簡の研究』、大東文化大学大学院
- 二〇〇〇年三月 単著 「秦漢文字字形考・Ⅵ」『大東書道研究』第八号、大東文化大学書道研究所
- 二〇〇一年三月 単著 「郭店楚簡文字字形考」『大東書道研究』第九号、大東文化大学書道研究所
- 一九九四年三月 単 「關於包山楚簡書法的考察」(北京・中日書法史論研討会)
- 二〇〇〇年三月 単 「包山楚簡・郭店楚簡の字形について」(中国出土資料学会、於・慶応義塾大学)
- 二〇〇〇年九月 単 「戦国の簡牘に見る字形の異同と省画に関する一考察」(第四回国際書学研究大会、於・日本教育会館)

主たる発表作品

- 一九七五年一月 日本の書展に出品(以後、毎年出品、全国書美術振興会)
- 一九七八年九月 パリ秋季芸術祭(フェスティバル・サロン・ドートンヌ・ア・パリ)に出品
- 一九八〇年十一月 東大寺昭和大納経 写経奉納
- 一九八三年一月 日中書道芸術交流展(日中平和友好条約締結五周年記念)に「詩経」出品

一九八三年三月 成田山大塔建立記念献書「詩経」

一九八三年五月 日本の書展香港展に「呈祥獻瑞」出品

一九八三年十一月 レール市日本現代文化展（ドイツ連邦共和国レール市・ルーネルブルク城美術館主催）に出品

一九八四年六月 フランス・ニーム市日本文化の祭展に「顕光」出品

一九八六年一月 日本書道展（ベルギー国ブリュッセル市王立図書館）に出品

一九八七年三月 日本の書展（ワシントン在米日本大使館主催）に出品

一九八七年九月 ニューヨーク州立大学ニューポールツカレッジ「日本現代書展」に出品

一九八九年十一月 日本の書展「英国展」（日本大使館主催）に出品

一九九〇年四月 日本の書展（マドリッド、日本国大使館・マドリッド市共催）に「隸書七言絶句」を出品

一九九三年十一月 皇太子御成婚記念「日本の書展・慶祝展」（メルボルン大学美術部・在メルボルン日本国総領事館）に「篆書七言絶句」を出品

第三十九回現代書道二十人展（朝日新聞社主催）に出品（以後、毎年）

一九九五年一月 95 SEUL国際書芸展（韓国書家協会・韓国国際書法聯盟主催）に「良朋」を出品

一九九五年九月 読売新聞朝刊文化欄の「歌壇」「俳壇」題字を揮毫

一九九六年五月 全国戦没者追悼式、標柱「全国戦没者之霊」揮毫（日本武道館）以降毎年

一九九九年八月 日中書法展（中国西安市・陝西省歴史博物館）に「益寿」を出品

二〇〇〇年十二月 中国書家協会成立二十周年記念「国際名家書法展」（中国革命博物館）に出品

二〇〇一年五月 日中国交正常化三十周年記念「現代書道二十人展・日中交流展」（中華人民共和国文化部、朝日新聞社主催）に「和神」「篆書五言二句」を出品

二〇〇二年四月 日中の書展パリ展（パリ日本文化会館・全国書美術振興会）に出品

二〇〇二年六月 謙慎展西川春洞先生記念賞「詩経」（隸書）

発表作品の受賞

一九七二年二月 第四回日展特選「九穀斯豊」（隸書）

一九七二年十月 第十回日展特選「熱鐵」（隸書）

一九七八年十月 第二十六回日展特選「雲龍風虎」（金文）

一九九四年十一月

二〇〇〇年十一月 第三十二回日展文部大臣賞「盛稻梁」（金文）

二〇〇四年三月 日本芸術院賞「明且鮮」（第三十五回日展作品に対して）

二〇〇四年三月 二〇〇三年度恩賜賞「明且鮮」（第三十五回日展作品に対して）

二〇〇四年六月 大東文化大学 学園栄誉章

主たる作品の収蔵機関

英国大英図書館「辰徳」（九四×一六九cm）

パリ、在仏日本国大使館「明星」（六一×九一cm）

スペイン・マドリード市国立人類学博物館「良朋」

ベルギー日本国大使館「博達」（五〇×七五cm）

首相官邸「龍神」（七八×一二四cm）